

五小っ子

平成31年度 学校便り第7号 (6月19日)
(令和元年度)

島原市立第五小学校
校長 永田 俊文



いのち

学校教育目標

『生命を大切にし、進んで学ぶ』

心身ともにたくましい子どもを育成する』

○ やさしさいっぱい ○ かしこさいっぱい ○ たくましさいっぱい

教育目標実現を目指し、子どもたち一人ひとりを大切に、全職員で力を合わせ、日々の教育活動に取り組みます。

雲仙普賢岳噴火災害の記憶

昨日18日で、最大震度6弱を観測した大阪府北部地震から1年となります。昨晚の新潟地震(震度6強)にも驚きました。

2011年の東日本大震災、その後の日本各地における大雨や台風による甚大な被害により今もなお厳しい状況下での生活を余儀なくされている被災地の方々の心痛を思う時、雲仙普賢岳噴火災害が思い出されます。

当時の色々な資料をもとに記憶をたどってみたいと思います。

平成2年11月17日、198年ぶりに永い眠りから覚めた雲仙普賢岳が、土石流や火砕流・噴石・降灰等の実質的被害をもたらすようになったのは平成3年からだった。

□平成3年5月

水無川では雨の度に土石流が頻発していた。当中尾川流域の島原市立第四小学校に勤務していたので「土石流想定」の避難訓練を実施していたが、「川から一番遠い校舎3階に避難する。」というマニュアルだった。まだ土石流のスピードやエネルギーに対する認識が不足していた。その後、日を追う毎に緊張感が高まっていく。



□平成3年6月3日午後4時8分

『大火砕流発生!』火山雷の轟音とともに空が真っ暗になった。児童は下校しており、交通の混雑を避けるため職員も急ぎ自宅へ。しかし、途中ワイパーも効かないほどの泥雨が降り始めた。どうにか自宅へ到着すると、ニュースでは地獄のような悲惨な光景が映し出されていた。

第五小学校・第三中学校は警戒区域に設定され、学校そのものが緊急避難することになる。翌4日から7日まで両校は臨時休業となったが、8日からは第五小と第三小、第三中と第二中で、午前と午後に分けての2部授業が実施された。教材教具も持ち出せないまま緊急避難していたが、4日間の臨時休業の間に2部授業の準備を整えたのだから驚きである。

□平成3年6月12日未明 市中に噴石が落下し、嚴重な警戒を要する事態となった。自宅も親指大の噴石が庭を埋めていた。山体が膨張し山体崩壊の危険があり島原半島全域が警戒態勢をしいた。マスコミも全て島原市から撤去したことで市民の恐怖心を一層かき立てられた事をよく覚えている。

右頁へ



児童生徒の安全確保と学習の維持のために、6月20日から7月31日までを夏休みとする事となった。12日から夏休み前日の19日まで、連日火砕流が頻発し、保護者の不安と動揺が大きく、児童生徒の緊急自主避難が相次いだ。

正常な学校教育ができる状態ではなく結果的に7日間、臨時休業となった。

夏休み前の指導もできないまま休業に入る事になったので、各学校とも、担任は児童の自宅や各避難所を回り、家庭訪問を実施しながら1学期の通知表を渡すとともに子どもたちの状況把握と激励を行った。

また、避難所での生活では、家庭学習も十分できないため、避難所となっている学校や公民館の一室と市立図書館を児童生徒の学習室として開放し、職員が交代で自主的に指導に当たった。「仮転出・仮入学措置」もこの頃であった。

最も多い日には市全体の3割が転出したと記録にある。

仮設校舎建設の準備も驚くほど早く、7月10日着工、7月31日完成、8月1日には、授業が再開されている。

その後も雨が降る度に水無川流域では土石流により多くの家屋が埋没・流出していった。更に、平成5年には普賢岳噴火活動が活発化し、再び夏休みの時季変更を余儀なくされることになる。

子どもたちは約3年間、ヘルメット・ゴーグル・防塵マスクを身に付けての登下校等、とても不自由な生活だったが、全国からの温かい励ましに救われた事が今もなお忘れられない。

2週間前の6月3日「いのりの日集会」での子どもたちの真剣な態度を今だ忘れることが出来ず、私も記憶を留めたかったです。

夢の教室

14日(金)、5年生が受けた授業は『夢の教室』です。5年2組の学級通信からその様子を一部紹介します。



元プロキックボクサーで、K-1でも活躍された富平辰文さんが夢先生としてやってくださいました。

日本サッカー協会による「JFA ころのプロジェクト」は、2007年から開催されており、富平さんもベテランの夢先生です。とても分かりやすく楽しい授業で、子どもたちは大興奮でした。

ゲームの時間は、体育館で、間接的にキックを受けたり、「鬼遊び」を行ったりしました。アシスタントの久光さんが鬼です。富平さんと作戦を練りながら、何度も挑戦して全員移動を成功させました。

ただ一生懸命に走っても作戦が正しくてもだめで、「考え、工夫し、やることを決める。そして、決めたことを集中してしっかりやる。」ことが大事だと教わりました。これは、夢に向かうときも同じだそうです。

ゲームの後は、教室でのトークの時間です。富平さんの選手時代の映像を見せてもらった子どもたちは、迫りにビックリ! 勝った試合のほうが断然多い富平さんですが、2つの負け試合をもとに、「びびらず、最後まであきらめないことの大切さ」について話してくださいました。